

# 「石灰窒素だよりNo.153」 アンケートに寄せられたお便り

## 意見

●北海道・Fさん

値段が高すぎる。

●北海道・Sさん

もう少し安価な商品を出してほしい。

●東京都・Tさん

ほかの肥料との組み合わせ方、窒素肥料としての肥効期間などの具体例を紹介してほしい。

●茨城県・Oさん

肥料・農薬としては相対的に価格が高くなってしまふ。

●埼玉県・Fさん

もう少し値が下がればうれしい。稲作にも使用したいが、米価が安いいため資材として使用しきれない。

●埼玉県・Uさん

タマネギ、玉太り良好。

●群馬県・Oさん

粉状から粒状になったので、散布が楽になった（散布機）。

●岐阜県・Sさん

石灰窒素はコワイ物と思っていました。しかし、それが間違いであることがわかり、使用範囲が広がりそうです。

●三重県・Uさん

ホームセンターで安価のため1袋購入したが、粒状である（粒状と書いてある）が散布するとき粉状になり散布できなかった。Made in chinaであった。



●岡山県・Sさん

肥料・農薬代の高騰に頭が痛い（以前から土づくりに使用のSさん）。

●新潟県・Sさん

価格が高く、効果はあるにしても使用しづらい（以前、今後とも使用しないという意見）。

●新潟県・Sさん

昨年より交付金もなくなり、資材コストと収量アップが課題です。

## 要望

●神奈川県・Sさん

スクミリングガイに対する駆除方法についての近年の研究記事を望みます。

●千葉県・Iさん

もっと身近な肥料・農薬として使用したいので、たくさんの実用例を記載してください。

●島根県・Yさん

価格が少し下がればよい。

●埼玉県・Mさん

薬効に加え、肥効、土壌、pHの調整効果などファクターが多く、施肥量の決定にいつも頭を悩ませています。マニュアルのようなものがあると良いと思います。施用効果は確実に感じます。

●静岡県・Yさん

3年前より使っていますが、効果は実感しました。もっと安くなればいいですけど。

## 体験記、使用方法

●岩手県・Aさん

水田ホタルイなど発生したことの無い水田で平成29年に発生したので、工業会からの資料を読み、平成30年に試したところ減少したので、今後も期待して使用する予定です。

●岩手県・Aさん

初めて稲わらのすき込みに使用しました。そのせいか、周囲の田は黄色くなっているのに、どことなく青く、粒の大きな米ができました。

●千葉県・Iさん

現状は、夏の消毒としてネコブセンチュウの害が少ないので、石灰窒素とバスアミドの効果だと思います。今年も予定しております。

●千葉県・Eさん

畑が空いてきましたので、土中の殺虫剤として石灰窒素を使っています。

●千葉県・Tさん

野菜の近くに施肥しすぎて枯れたり、弱ったりしました。素人には難しい。でも、失敗して成功するかも。

●栃木県・Oさん

10aあたり20kgを畑全面に散布すると、ネキリムシやカメムシなどが野菜に付きにくくなった。

●埼玉県・Hさん

石灰窒素の効果は、使ってみて有効だと認識しています。今後も使い続けていきます（肥料として稲に、農薬としてキャベツ・ニンジンに使用）。

●長野県・Kさん

わらを完熟するために使いました。

●長野県・Iさん

稲わらや土手草などはほとんど田んぼに戻します。そのため、毎年、石灰窒素は必ず散布します。

●長野県・Kさん

窒素の供給、土の酸性中和を期待して使っています。土壌中の微生物（有用菌）への影響を心配しています。

●静岡県・Oさん

畑の基本施肥として年1回の周期で2～3袋/10a実施している。

●愛知県・Sさん

キャベツに使っている方が「草が少なくなり良い」と言っているので使ってみたいです。家では、トルコギキョウ、ストック中心なので、花での使用方法がまだよくわかりません。

●岐阜県・Sさん

ナスが順調に育ち、収量も増えた。オクラは長期収穫ができ、収入が増えました。今後も適切に使用し、野菜づくりに役立てたいと思います。

●岐阜県・Sさん

石灰窒素を散布し、夕食に飲酒したら、すごい中毒の症状が出るので注意してほしい。

●奈良県・Hさん

散布時の注意点が多く、重量・形状などを考慮して安全・有効な手法を考慮中です。

●兵庫県・Aさん

単価がもう少し安ければよいのですが。確かに雑草は少ないし、わらはよく腐熟するので効果はあります。

●兵庫県・Nさん

土づくりに次のように使用しています。①稲の収穫後、12月にすきおこしする前に20kg/10 a 背負式散布器で撒いてから、トラクタですきます。わらの分解を早め、田植時の稲シキを防ぐ狙いです。②畑などの草をすき込む前に散布し、土壌改良、タネの育成助成としています。①②とも良好な状況です。

●鳥取県・Tさん

先輩から「タブー」とされていましたが、私は20年来、殺菌・除草・肥料として使用しています。

●鳥根県・Nさん

土づくりにブロッコリー、キャベツの収穫後20kg/10 a 使用。もう少し安価にすれば、使用量が増えると思います。

●福岡県・Mさん

肥料としてピーナッツ、バレイショに使用しています。今後、アブラナ科野菜に使用したいと思います。

●福岡県・Tさん

使用前より肌がよくなった。葉物野菜が元気で色合いもよい（肥料・農薬としてダイコン、カブ、ニンジンなどに使用）。

●新潟県・Sさん

ハクサイ、ブロッコリーのネコブが少なくなった（肥料・農薬として使用）。

●新潟県・Tさん

今まではジャガイモ、ダイコンは線虫に悩まされてきましたが、石灰窒素を使用したら品質が向上しました。御社に感謝申し上げます（送付した資料を参考に初めて使用された方）。

●新潟県・Sさん

サツマイモ、ダイコンはネズミ、虫食いの被害が多かったが、大変少なくなり、きれいな品物が多く収穫されたので、来年も使用する予定です（送付した資料を参考に初めて使用された方）。

●福島県・Sさん

稲刈り後、石灰窒素を散布してロータリーをかけたら、翌年の田植え時にガスが発生しなくてよかったです。

●山形県・Sさん

今はたくさん雪が降っています。ネコブがひどいので、昨年より作物が終わった時に畑にふり込みました。アスパラは少し出荷しましたが、ほとんど自家消費で少しずつたくさんの種類の野菜をつくっています。

●群馬県・Iさん

小麦の追肥として緩効性が品質向上に役立っている。



# 国産石灰窒素の農薬登録内容

日本国内で生産される石灰窒素は、すべて農薬登録を取得しており、現在、「粒状石灰窒素40（粒）」「石灰窒素50（粉）」「石灰窒素55（粒）」の3剤が流通しています（数字はシアナミドの含有量を表しています）。

## ●石灰窒素 農薬登録内容（令和元年11月現在）

作物名	適用病害虫（雑草）名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	石灰窒素を含む農薬の総使用回数
水稲	ユリミズ	40～60kg/10 a	は種前 又は植付前	1回	散布後土壌混和	-
	ザリガニ スクミリンゴガイ	20～30kg/10 a	植代前		散布 荒耕し後3～4cmに湛水し、3～4日後全面に散布、3～4日放置後植代を行う。 (漏水を防止すること)	
	スクミリンゴガイ		刈取後 (水温15℃以上の時期)		散布 3～4cmに湛水し、1～4日後全面に散布、3～4日放置する。 (漏水を防止すること)	
	ノビエの休眠覚醒 (湿田及び半湿田)	40～50kg/10 a	水稲刈取後 1週間以内		全面散布	
	水田作物(水田刈跡)	水田一年生雑草	30～70kg/10 a		は種又は植付前	
50～70kg/10 a			水田作物刈取後			
れんこん	スクミリンゴガイ	60～100kg/10 a	植付前		散布後土壌混和 (7日以上放置後植代を行う)	
はくさい キャベツ	根こぶ病	100～200kg/10 a	は種前 又は植付前		散布後土壌混和	
野菜類*1 豆類(種実) いも類	センチュウ類	50～100kg/10a	は種前 又は植付前		散布後土壌混和	
	一年生雑草	50～70kg/10 a		散布		
麦類			は種前			
桑	カイガラムシ類 胴枯病	温湯10L当り 400～800g/10 a	7月下旬～ 10月上旬		上澄液を株又は枝条の基部に散布する。	

作物名	使用目的	使用量		使用時期	本剤の使用回数	使用方法	石灰窒素を含む農薬の総使用回数
		薬量	希釈水量				
ばれいしょ*2	茎葉枯凋	10～15kg/10 a	100 L /10 a	茎葉黄変期	1回	茎葉散布(上澄液) 茎葉散布	-

\*1 野菜類には豆類（未成熟）が含まれます。 \*2 「石灰窒素50」粉状品のみ登録です。

△ 使用上の注意	
使用面	安全面
<p>① は種又は移植に当り、暖地では3～7日前、寒地では7～10日前に施して土とよく混ぜること。</p> <p>② 農薬として使用の際は、肥料として窒素過多にならぬよう、窒素肥料全体としての使用量に注意すること。</p> <p>③ 使用量に合わせ秤量し、使いきること。</p> <p>④ 雑草防除の時は、田畑共耕起の前に施し、耕起しない田では、刈り取り後に施すこと。</p> <p>⑤ 使用するとき、他の作物にからぬように注意すること。</p> <p>⑥ 水稲のザリガニ、スクミリンゴガイ防除用途に使用する場合は、湛水状態で均一に散布し、散布後少なくとも7日間はそのまま湛水状態を保ち、落水、かけ流しはしないこと。</p> <p>⑦ れんこんのスクミリンゴガイ防除に使用する場合は、散布後土壌混和し、少なくとも7日間はそのまま湛水状態を保ち、落水、かけ流しはしないこと。</p> <p>⑧ ノビエ種子の休眠覚醒に使用する場合は、下記の注意を守ること。 ・ 稲刈り取り後、落下ノビエ種子が乾燥前（土壌湿潤状態中）に石灰窒素を散布すること。 ・ 石灰窒素の主成分シアナミドが溶解し、ノビエ種子に吸収できる水分を保有する圃場であること。 (稲刈り取り後の地下水位10～20cm地帯) ・ 石灰窒素によって処理されたノビエ種子が覚醒発芽し得る温度（平均温度15℃以上）を15日以上保てる気温の地帯であること。 ・ 4～5年連用することによって効果を確保する。</p> <p>⑨ 桑に使用する場合は、本剤を所定量の温湯に加え十分攪拌し溶解させた後、その上澄液を株又は枝条の基部に十分散布すること。 桑に使用した当日は蚕に桑葉を給餌しないこと。</p> <p>⑩ 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。</p>	<p>① 誤飲、誤食などのないよう注意すること。 誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の手当てを受けさせること。 本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当てを受けること。 (小児の手の届くところには置かない)</p> <p>② 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。 眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当てを受けること。</p> <p>③ 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意すること。 付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。</p> <p>④ 散布液調整時及び散布の際は保護眼鏡、防護マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用すること。 また、薬剤を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに身体を洗い流し、洗顔・うがいをするとともに衣服を交換すること。</p> <p>⑤ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。</p> <p>⑥ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないよう注意し、施用した作物等との接触を避けること。</p> <p>⑦ 夏期高温時の使用を避けること。</p> <p>⑧ 散布後24時間以内は飲酒はしないこと。</p> <p>⑨ 水産動物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。</p> <p>⑩ 水産動物(魚類・甲殻類・藻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。</p> <p>⑪ 吸湿性があるため、防水に留意し、雨漏れ、浸水等の恐れのない場所に保管すること。</p> <p>⑫ 火災時は保護具を着用し水・消火剤等で消火に努めること。</p> <p>⑬ 漏出時は保護具を着用し拭き取り回収すること。</p> <p>⑭ 移送取扱いはていねいに行うこと。</p>